

11月 県議会ニュース 日本共産党県議団 です

両角友成議員の11月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの[議会の様子](#)から、質問の動画は右のQRコードよりご覧いただけます。



* * コメの増産について * *

両角 高市政権は食料自給率100%を掲げながら、米の生産調整をするのは大きな矛盾がある。長年の減反政策に猛暑が重なりコメ不足と米価高騰を招き、政府が増産を後押ししなければ同じ過ちを繰り返しコメ騒動は収まらない。全国に影響力を持つ知事は、広い視野でどのように考えるか。

知事 生産者も消費者も、納得できる価格で安定的に供給消費されるよう対応していくことが重要。県では、生産される方と流通消費、米に関わる全ての方々にご参画いただき、長野県産米生産流通消費等検討会議を設置した。来年度予算に向けて検討を深めていき、重要な課題は、国の制度改正も含めて引き続き強く求めていきたい。

* * 小水力発電の地域に根ざしたエネルギー源について * *

両角 小水力発電はCO₂排出量が最も少ないクリーンエネルギーで、気候変動対策に貢献すると考えられており、昼夜問わず安定供給できる地域固有のエネルギー源である。長野県は適地を多く有し、農業水利施設の活用も進んでいる。地域の雇用創出や収入確保にも繋がり、導入促進に一層力を入れるべき。今後の可能性を含め、見解を伺う。

環境部長 固定価格買取制度を活用した小水力発電の設置件数は全国1位。従来の取組に加え新たに発電事業者間の懇話会を設立をし、地元調整や水利権申請等の手続に関する検討や、情報共有、地域内経済循環に資する優良モデルの創出とともに、各地で地域エネルギー事業者が設立され経営安定を目指す等、小水力発電の普及に取り組む。

* * 医師不足解消について * *

両角 現場では深刻な医師不足で、過労死ラインの2倍の働き方を認めるような現状。12県知事による国に対する提言は、医師不足や地域間偏在の根本的な解消に向けた実効性のある施策を求めており、「医師の絶対数を増やすことが必要」とある。県内では木曽をはじめとする地域で医師不足の問題が解決されず、多くの県民の生命や健康を守る医師の確保が不可欠な状況。医師確保についてどのような対策を講じるのか。

健康福祉部長 第8次長野県医師確保計画に基づき、医学生修学資金の貸与や医師を派遣する医療機関への支援等の実施など様々な取組をしている。今後もこれらの取組を実施し、国が示した医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージの進展に合わせ、医師派遣に係る新たな支援についても検討していく。

両角 突然地域から病院がなくなるようなことが起こり得る状況が続いている。まずは診療報酬の大幅な引き上げを実現させ、そしてドクター1人育てるのに6年、10年かかる為、今できることは何でも取り組むべき。

お質問を終えて
田中角栄さんのころ、全国に革新自治体が広がり、70歳から医療費が無料になったことを紹介し、「やればできる」と結びました。

